



第122号



総本山西教寺山門

就任のごあいさつ



宗務総長 前阪 良憲
(滋賀教区 深光寺住職)

天皇陛下の御即位によって慶びに沸き立っている記念すべき年に不肖、私が天台真盛宗宗議会において皆さまの推薦により五月九日付で宗務総長に就任させて頂きました。

もとより浅学非才の身ではありますが、誠に光栄でありこの重要さを「ひしひし」と感じていた次第です。この上は武田圓寵猊下の御教示を仰ぎ天台真盛宗門末寺院僧侶・檀信徒の皆さま、そして有縁の方々のご協力を頂き、宗門発展、更には総本山西教寺の護持のために微力ではありますが努力して行く所存であります。

真盛宗読本（色井秀護著）にも記されていますように、宗祖慈攝大師真盛上人は『円戒念仏』の二門を立てられ『我らが如き一類を道心門と名づく』と告示されております。

道心とは、無上仏道心であり、いつの時代でもだれについても正しい最高の覚であるとお教えいただけます。

その教えを忘れずに精進してまいりたいと思っております。

さて、本宗は令和三年十一月二日より八日まで不断念仏相続十九萬日大法会厳修にあたり、喚阿前内局によって企画・計画等が立案されました記念事業・法要次第も着々と準備が進められてきました。その御努力に感謝申し上げます。その事業の継続完遂することが当内局の責務とうけております。

そして檀信徒の方々が道心一体で不断念仏相続十九萬日大法会を、お迎えできるように計画をして

いきたいと考えています。各教区から有能な方々を推薦をいただき誠に心強く部長と力を一にして努力致す所存であります。

さて昨今の国内を見れば、地震・台風等自然災害によって多くの尊い生命財産が失われています。また、少子高齢化と共に人口減少という深刻な社会問題、高齢者や子どもへの虐待事件、小さな命が失われた大惨事、高齢者の交通事故が多発しています。このような事件事故は、我々人間が仏心をもって秩序を守つたならば防ぎ事ができます。

一方、仏教界では過疎化による檀信徒の減少、先祖の墓じまい、寺離れ等が深刻な問題となっています。本宗においても少なからずこの問題に直面しているといっても過言ではありません。これらの諸問題は大きな課題でもありますが、来年は、明智光秀公が主人公のNHK大河ドラマ『麒麟がくる』が放映されます。西教寺にとっては菩提寺としての全国に発信するまたとないチャンスであります。NHK、滋賀県、大津市観光協会等とタイアップして参拝者の受け入れの充実、それに駐車場問題等課題に取り組み宗門繁栄に務めたく宗門住職、檀信徒皆様のご指導・ご協力をお願い申し上げます。

新内局の部長紹介

- 社会部長 蜂谷真勝（福井教区 法徳寺住職）
- 庶務部長 色井秀宰（伊勢教区 村主寺住職）
- 教学部長 縄手教真（伊勢教区 長久寺住職）
- 財務部長 大上良雅（直轄教区 智禅寺住職）

明智光秀の西教寺復興

元龜二年（一五七一）に織田信長の比叡山焼討ちにより、西教寺は全焼しました。それから、わずか二年後に、西教寺は復興を許されます。延暦寺は、武田信玄などに働きかけ、再三にわたり復興を試みますが、信長に押さえられ、許可が下りませんでした。復興が許されたのは天正十二年（一五八四）、焼討ちより十三年後のことです。いかに西教寺が異例の早さで復興を許されたのが、わかります。

明智光秀は、焼き討ち間もなく、家臣に命じて西教寺の様子を報告させています。「廢墟となり、周囲を見渡しても僧徒は身を隠し、住んでいる人はいない。」それに対し、光秀は、朝夕の勤行が断絶していることを憂いて、家臣に命じ、生き残った西教寺の僧を探し出し、焼け跡より木材を集めて仮仏殿を作ったという記録が残されています。そこには、明智光秀が信長を説き伏せ、西教寺早期復興への並々ならぬ熱い思いが伝わってきます。

ちなみに、天正元年（一五七三）



正親町天皇綸旨

に西教寺第八世真源上人宛の正親町天皇綸旨文書が今も西教寺に残されています。綸旨とは天皇の意を受けて発給する文書です。文書には勅願所（天皇の命を受け、天下泰平・国家安全などを祈願する寺院）とする旨の内容が書かれています。復興を事実上容認され、勅願所としての環境が既に整っていることが、この文書よりうかがい知ることが出来ます。

（文責 明智光秀公顕彰会 前阪良樹）

天台真盛宗の雅楽

⑦

今回のご案内は三十二相と宴曲についてです。

我宗の人間宗宝に表せられました故片岡義道先生が、数百年の時を経た今資料は有っても現存していない宴曲や講式を研究されて復元、復曲されております。

その中からDVDで声明と雅楽を収録しました三十二相についてお話ししましょう。

この三十二相と言う曲は大原魚山に声明は永らく伝えられてきています。

この曲には雅楽曲散吟打球楽さんぎんちゆうきゅうらくと合わせて奏すると古譜に記されているのですが昭和三十年代まで合奏は途絶えて

おり比叡山の声明の大家の先生方と雅楽演奏は東儀和太郎先生が復元して、復曲させて昭和三十九年レコードに収められています。

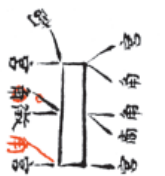
我々、真盛楽所のメンバーも平成元年に東京国立劇場で真盛宗の僧侶だけで出演して成功を収めております。

その後、片岡先生が遷化されて数年たち、本山を始め諸役の方々が先生の残された我宗にしかできないこの声明と雅楽の演奏を残していかないといかないと声が上がりました。

その計画に収録する場所提供を福井武生の引接寺本堂でと、故八耳哲雄御山主が申し出られ収録が始まりました、

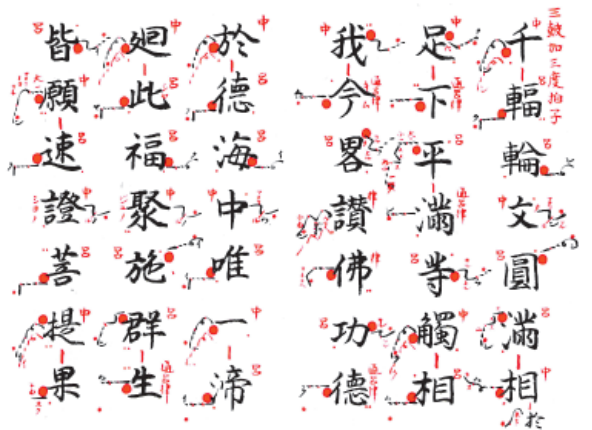
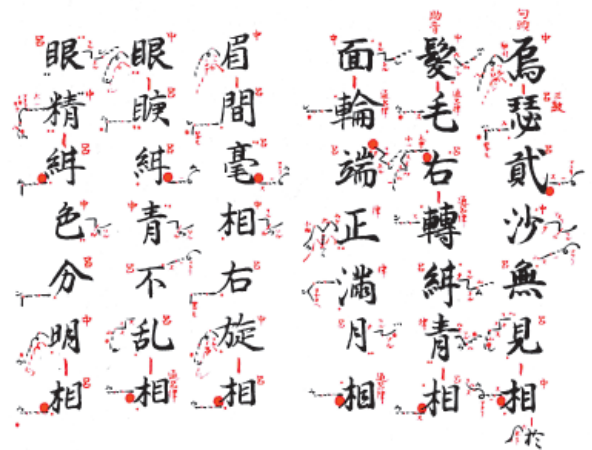
三十二相

合曲 出音梅角
黄鐘調



散吟打球楽 延只八拍子ト合奏スル也

用心集云
二拍子 只拍子
延 本及四分ニ四八
初 次
末 双
萬盛楽寺只拍子程
三十二相三拍子也



我々としても収録だけが目的の演奏など経験した事が無く緊張感を大いに感じながらDVD作成に携わった事を覚えていきます。

次に『宴曲』についてお話を致します。す和我宗には月と秋の二曲が有ります。宴曲は別名早歌そうかと言われて鎌倉時代後期に生まれた歌謡の事で室町時代ぐらいまで公家階級、上級武士階級、僧侶のなかで盛んに行われていました。月と秋はそれこそ宴の席で唄われていたことが想像できる雅な曲で秋の夜長などに良く合い我々の秋の時季の雅楽練習では本堂の縁で月を見ながら演

奏した事も有ります。しかしながら宴曲の伝承はその後にだいに能楽など新しい曲が生まれ衰退しております。

この宴曲も片岡先生が復曲し欧州公演にも昭和五十五年声明だけで出演し真盛楽所は平成七年三重県総合文化センター、平成二十二年三重県倭白山比叡神社大修復事業完成記念法楽などで演奏させて頂いております。

今回は壮大な順次往生講式についてご案内いたします。

(文責 多治見真篤)

お盆のこしらえ

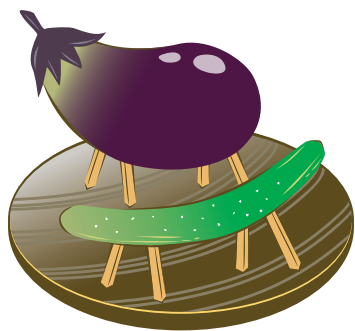
昔からお盆には、ご先祖様の霊をお迎えする盆棚しよりのうたな(精霊棚ともいう)をしたらえ、季節果物や野菜・団子・おはぎ・素麺等ご先祖様の好物を供え霊をもてなすという気持ちでお迎えをされることでしょうか。

盆棚のお飾りであるキュウリの馬とナスの牛は精霊馬と言いい、ご先祖様が無事にあちら(彼岸)とこちら(此岸)を往復するための乗り物で、キュウリやナスにオガラまたは割り箸を差して四本脚をつくり、馬と牛に見立てています。

キュウリは足の速い馬で、ご先祖様があちらの世界から少しでも早く家へ帰ってこられるように、ナスは歩みが遅い牛で、家からあちらの世界までのんびりと帰れるように、また重い供物を楽に持ち帰ってもらうためにこの願いが込められています。

ホオズキは提灯で、ご先祖様がその灯かりを頼りに迷わずに帰ってこられますようにとの願いが込められています。

しかし近年は、生活環境の変化から



『お盆休みは家族で海外旅行』また、『マシヨン等で間取りが狭く盆棚はあえてしつらえない』ご家庭も多いようですが、今年のお盆は『どうしてその文化があるのか?』『なぜ我が家は、この盆棚を受けついできたのか?』など家族に尋ねるなど、じっくり考えてみてはいかがでしょうか。

大河ドラマ「麒麟がくる」 禅明坊特別展示のご案内

二〇二〇年の大河ドラマ「麒麟がくる」の放映に伴い、同年三月初旬から約一年間、西教寺塔頭禅明坊において、特別展示を行います。

これは、西教寺も参画している、大河ドラマ「麒麟がくる」大津市観光振興協議会の取り組みで、大河ドラマの映像や衣装・小道具、光秀公に関する地域の資料などを展示いたします。

これに合わせて西教寺では、本坊表書院奥に令和元年六月十四日にオープンした明智光秀公展示室で、普段非公開となっている「光秀公寄進状」や、「明智佐間之介湖上渡りの鞍」など、明智光秀公ゆかりの貴重な資料などを特別公開しております。

是非この機会に登山いただき、貴重な資料をご覧ください。

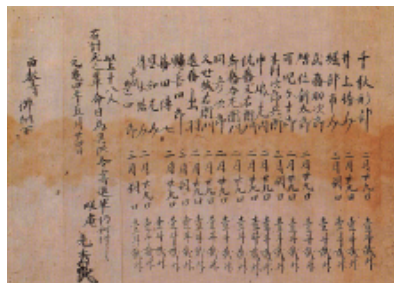
大津市観光振興協議会特別展示展入場料(禅明坊)

西教寺明智光秀公展示室入場料

五〇〇円
五〇〇円

※なお、檀信徒の方は西教寺明智光秀公展示室のみ無料ですが、必ず「寶珠」を拝観受付にてご提示ください。ご不明な点は、西教寺社会部まで御連絡ください。

※期間中展示内容が変わる場合がございますがご了承ください。



明智光秀公寄進状

菊料理のご案内

西教寺菊料理膳の9品。なます(上段中央)は叡山しめじ、一夜漬け(下段中央)は草津のコマツナを合わせるなど湖国を中心に食材を吟味する。菊の花をつけ込んだ菊酒(中段右)は味がまろやかになり色もこはく色になる2、3年ものが主で、重陽の節句にも飲まれる

大津市坂本の特産の食用菊を使った料理。菊寿司、菊なます、菊酒など菊づくし。

坂本では、昔より「菊を食べないと秋を迎えた気にならない」といわれるほど、松茸や栗より身近な秋の味覚のひとつなのだそう。ここ西教寺では、鮮やかな色目と香り・しゃっきりとした食感の坂本菊(食用)を味わうことができます。

食前酒からデザートまで、すべて菊料理のフルコースは、この時期、この地でしか味わえないもの、目で、舌で、秋の坂本を満喫できます!

西教寺菊料理膳

(期間限定11月10日より30日まで!!)

菊料理の料金

「1膳2,500円(消費税・拝観料別)」

●要予約(必ずご予約申し込みを! 1日限定150席)

お申し込み/西教寺寺務所 大津市坂本5-13-1
TEL.077-578-0013



団体参拝

ありがとうございます

平素は、多数、檀信徒様の総本山への御登山、御参拝を賜り誠にありがとうございます。

今後共、各末寺の御住職、檀信徒様によりよいご参拝がいただけますよう拝観案内等の充実につとめてまいりますので、たくさんのお参拝をお待ちしております。

十一月

二十一日 福井教区東部組粟生寺様団体

参拝 十六名

福井教区東部組放光寺様団体

参拝 五名

十二月

九日 伊賀教区北部組本願寺様団体

参拝 一一〇名

五月

二十日 伊勢教区笠松組浄泉寺様団体

参拝 三十五名

二十三日 滋賀教区蒲生組太光寺様団体

参拝 十九名

発行所 天台真盛宗教学部

大津市坂本五丁目十三-一

総本山西教寺内

電話 大津 (〇七七)五七八-〇一三番代

印刷所 宮川印刷株式会社

大津市富士見台三十八

電話 (〇七七)五三三-二四一